

# 猫被れな いの二人

満  
溢  
肉  
的  
心

DOUJIN  
**R18**  
成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止

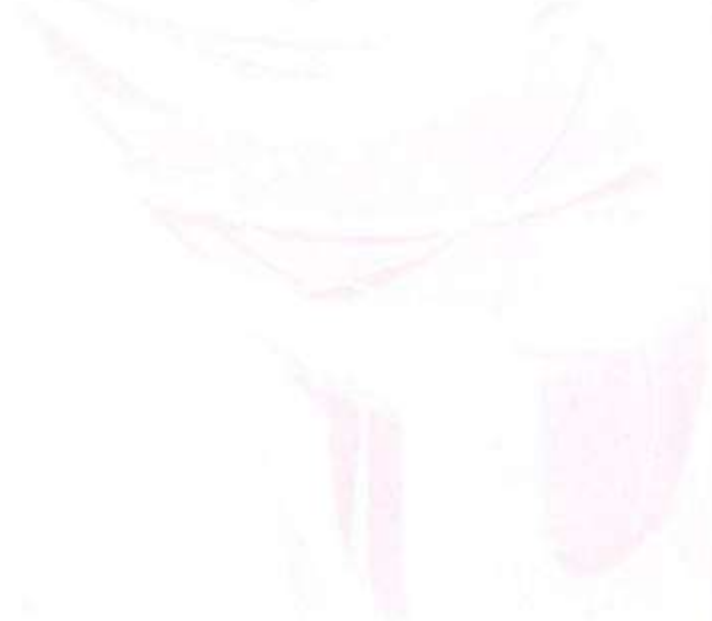






# 猫被れのないの二人

満益馬也的



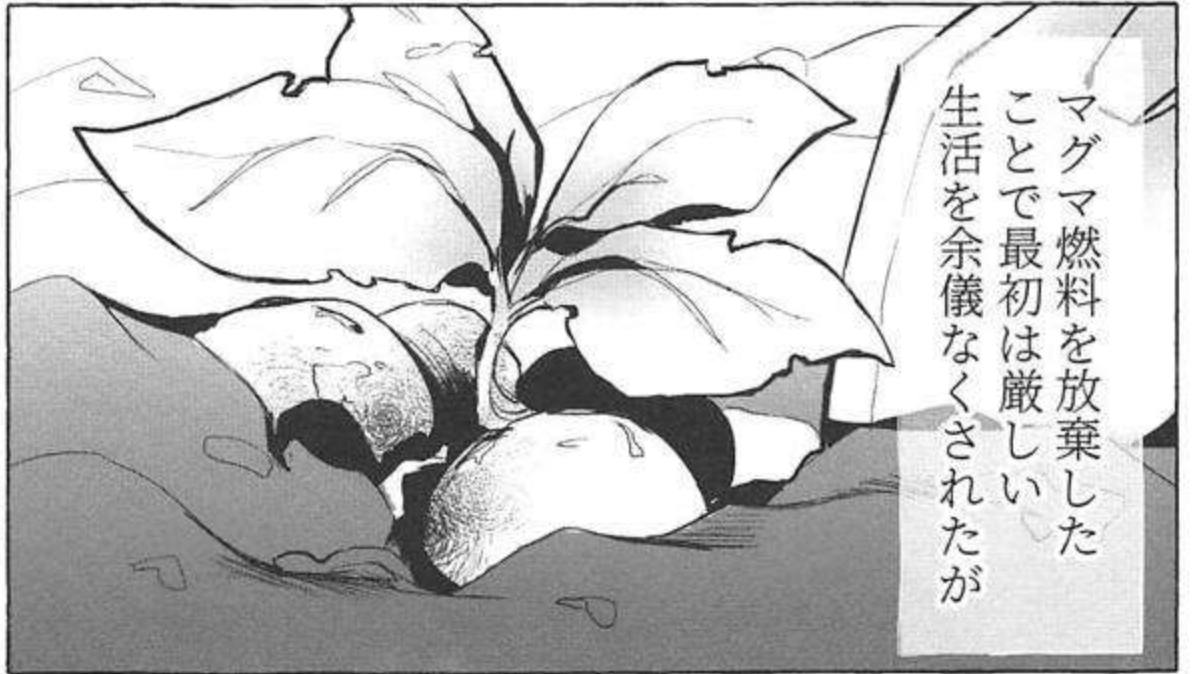


ヒロとゼロツーが戦争を  
終わらせてから数ヶ月が経った…



叫竜たちが大地へ帰ったあと  
環境は劇的な改善を見せ  
世界に再び命と植物が  
満ち溢れるようになるまで  
そう時間は掛からなかった

鳥や動物が生気を  
取り戻したとともに  
私たちの新しい生活も  
軌道に乗り始めた



マグマ燃料を放棄した  
ことで最初は厳しい  
生活を余儀なくされたが



それでも私たちはこの  
選択を誇りに思っている



考えられないよね…ヒロ  
私がコールドスリープ  
されていた間のことは  
みんなが教えてくれた



改めてさよならを  
言えなかったのは残念だけど  
あの時ヒロを引き止めたのは…  
本当によかったと思ってる





みんなが言っているゼロツの姿を  
目にするとはなかったけど  
あなた達を取り戻してくれたすべて

形のあるものやないものは  
今でも私たちを突き動かしている



ありがとう

もうちよつとだけ勉強するわ



もう遅いから…  
そろそろ休みにしようか



よーし!  
ゴローからもらった資料は  
まだまだ残ってるから…



はー



ちひ  
ちひ





私も手伝うわ



みんなのためにも  
頑張らなくちゃね



寝なさいって言うと思った

言っても聞かないし  
二人で早く片付けたほ  
うがいいでしょ？

やれやれ

じゃあお言葉に甘えて  
助かるよ

イクノのことを  
からかいながら  
ちよっと一休  
みしたら  
すぐさま作業を再開

未来に繋ぐために  
私たちはあと  
どれくらいなのかも  
わからない  
残された時間の  
限り走り抜ける  
しかない

できるだけ早く  
成果を出さ  
ねばならない…

子供たちと…

私たち…

大人のためにも









ココロは嬉し  
そうだったし

あんたも生き生きし  
てたじゃない



よしてくださいよ…

はしゃぐココロさん  
を相手にするのは  
大変でしたから



ふふ  
ココロと付き合ってから  
随分と素直になったよね

髪洗ってあげるね、パパ

また僕のこと  
をからかって

いいえ  
これでも  
褒めてるつもりよ

パパ  
髪を切つてあげるね

今日はどんな髪型に  
しようかな？…ふふ…

…今回は変な副作用は  
ないでしょうね？

ミツルくん…  
髪を梳かしてもらう  
の気持ちいい？

えっと…  
うん…



保証はできないわよ

熱出たりして



あとで仕返そう…

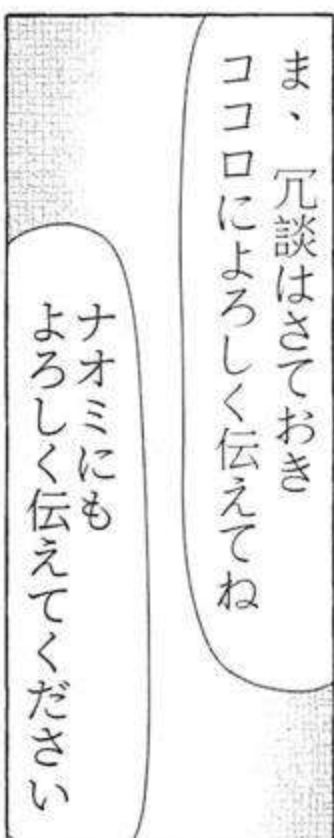
ぐいっ



元々は自分の体を  
実験台にしてたけど  
誰かさんのせいで  
効果もわからない  
未完成品をみんなに  
試してもらおうよう  
になったのよね

一体誰なのかな

わかりましたから…



ま、冗談はさておき  
ココロによろしく伝えてね

ナオミにも  
よろしく伝えてください









夕食の仕度も  
ありますから

続きは夜で…



どういたしまして



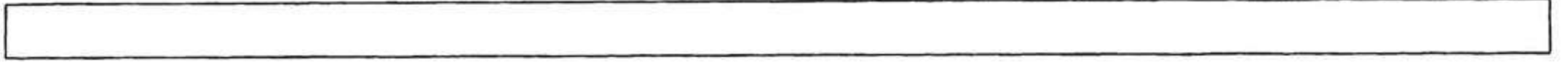
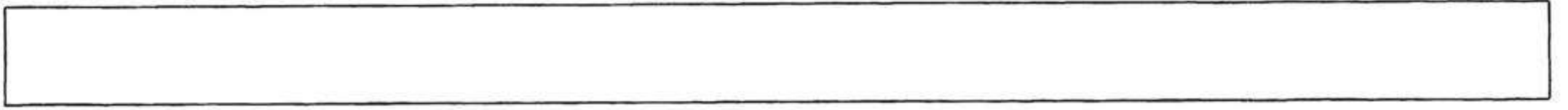
もう…  
お水を持ってくるね

ありがとう



またこうやって…  
ミツルくんのいじわる  
そちらから  
キスしてきたのに







重たい体を引きずって  
体力が尽きる前に  
何とか布団に入れた



いくら寝汗をかいても  
熱は一向に収まる気配はない



ますます速くなる息は苦しく  
眠りにつくことすらままならない

辛さが限界に達したその時  
ふと優しく撫でられた気がした



……

誰かが体を拭いてくれて  
汗で濡れてしまった服も替えてくれたようだ



ママ？



はい

着替えが終わったら  
また優しく撫で  
られているのを感じた



その安心感で僕の意識は  
段々と薄れ  
やがて完全に眠り  
に落ちてしまった







もう深夜か…  
 聴覚と視覚が異様に  
 鋭く感じる…  
 クスリのせいなのか？



うう…頭が痛い…



はっ！？



すや〜

ココロさん…



はあ…はあ…



チラッ



お疲れ様…



そうか…  
 ココロさんがずっと世話を  
 してくれたんだ…





ん…ミツルくん…  
体調はよくなった？

うん…迷惑をかけました…

えへへ…  
かわいいなあ…

か…かわいい？

ネコミミが生えた  
ミツルくん…  
ふふ

猫…ですか？

そうだよ  
今回の副作用は  
猫っぽくなるみたい

え？  
僕から見れば…  
ココロさんのほうこそ…







ココロさんを襲いたい気持ち

あ…やはり辛い？  
水取って来るね

うん…

抑えきれない…

待ってて

スーッ

きゃー！？

ギョウウシ

はっ

体が熱い





ココロさん…











そんなに触られたら

欲しくなっちゃう…



やん

ゾクゾク

ベニベニ



ヒクン

ベニベニ



ベニベニ

やっ…ダメ…

ベニベニ



せめてベッドでしょ…

こんなところで…

おろおろ



ココロさん…

僕はもう…

がっ



口では誤魔化しているが  
体のほうはもう我慢できれず尻を僕に向けてきた

こんな魅惑な姿にびしょ濡れの秘部を見て  
僕の理性は再び崩れ去った…

ココロさん…  
もう本当に我慢できません

このまま挿れてもいいですか？

…うん

ガチユツ

ズキユ

ビクッ







ビクッ

激しすぎて...

ズプ

ズプ

勝手に声が出ちゃうよ...



深... いった...

ビクッ



ズプ  
ズプ

だって...  
声が大きすぎると  
アイを起こしてしまうから...

気持ちいいなら  
声出してもいいですよ



やん



ビクッ

ズプ













フチャミ

ニギニギ

スパッ

ズブッ



ずちゅ

びゅ

こんなの...

すぐ...



ゆっくりして...

まだ敏感なんだから...



ごめんなさい...

ココロさんが... エロすぎて









母乳の味見をしてたら  
ココロさんは艶やかな声で  
僕にお願いしてきた

ミツルくん：  
もう片方も…



彼女の求めるがままに  
乳首にそっと触れると  
ココロさんは身体が仰け反るほど感じてくれた

気持ちよさそうにしてる彼女を  
見てると入れたままの僕の陰茎が  
より一層膨れ上がってきたのだ









いめんなさ〜…  
行きますね

ふえ…  
ひどいよミツルくん…



コロコロ…  
もう一回…

はぁ…はぁ…  
ま…待って…



この姿勢…  
危ないんじゃない？

しっかり掴まってて

あん…うう…

一番奥まで当たって…





(はあ)

うるつ

死んじゃうよお...

クスリの影響なのか  
こんなアクロバティックな  
体位でもまったく  
疲れを感じない



(はっ)

気持ち良すぎて...

し...

はあ...はあ...

(はっ)

思わず漏れる喘ぎ声を聞いて  
僕の動きはより激しさを増す



ピクピク

(あ)

トッ  
タッ  
ツ

ド  
ク  
ツ

ド  
ク  
ツ

ド  
ク  
ツ

そのまま...  
容赦なく畳み掛けて  
僕たちは再び絶頂を迎えた



(はあ)

ズズッ

奥を突かれるたびに  
ココロさんは快樂に身を震わせ  
アソコの締め付けもどんどん強くなる

ココロさん...

いきます

ピク

あ...

ピキョッ









肉休む暇もなく蹂躪され続けて  
もはやむせび泣きのような  
声しか出せず  
快感と苦痛の極限状態の中で  
完全に考える力を失った

そんなココロさんを見ると  
本能的な嗜虐心がそそられる  
行けるところまで行ってみたいくなった







そこからもう性欲に負けて  
本能の赴くままに貪った

詳しいことは覚えていない

まるで徹底的に孕ませたいかのように

繰り返し精液を彼女の子宮に  
注ぎ込んだことは記憶に残っている

そうやって体を重ね  
やがて意識が薄れるまで続けていた

びゅるるっ

どんどん

びゅん

はあ

あ

はっ

あ

あ

びゅん

はっ

はっ





元に戻った？



うわ！

ぽっ



金玉が痛い…

うっ…



思い返せば…

昨日はココロさんに  
酷いことを  
いっぱいしてしまった

何なんだあのクスリは  
効きすぎだろ…

パパ？



部屋で待っていてくれる？

アイ

ママが面倒見てあげるから

うん

パパは？



起きてたんだ…  
体調はよくなったの？

パパ！





ミツルくん…

昨日のことは  
どうかと思うの

すみませんでした…

大変でしたよね

そうよ



続きは夜でって言ったのに

一度もキスして  
くれなかったもん

…うん？

僕はてっきり…

やり過ぎて怒られる

と思ったの？

うーん

えっ…違うんですか？

違うよ…

おクスリのせいで  
乱暴になっただけだし



それに言ったでしょ？

くさ

ミツルくんは…

好きなようにしていいんだって

でもね…

トッ

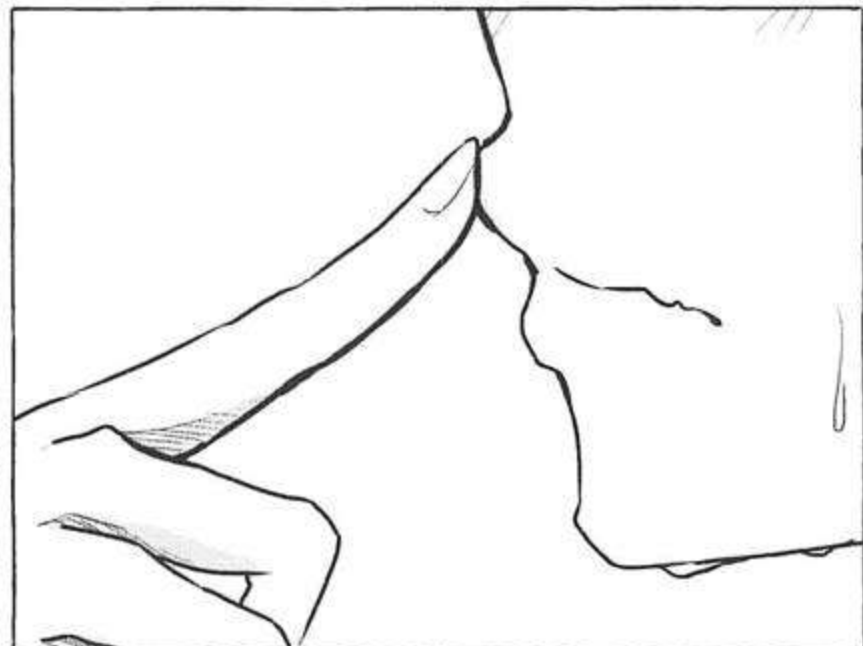




わく

わく

目を閉じてキスを  
待つココロさんを見て  
まだもやもやしてるが  
彼女の期待に応えることにした



あいつ



チヨッ



えへへ

僕はこの先生に残れるのだろうか…  
ここにきてようやく思い出した  
イクノがくれたクスリは  
一週間服用しないといけないことを

じんまり

許さないからね

…今夜またキスするの忘れたら





この前のクスリの副作用なんだが

みんなに聞いてもなんか  
誤魔化されている気がするけど…  
理由はわかるか？

えっと…

イチゴのためにも  
教えないようにしないと…

## あとがき

キャロットです、二本目のミツココ本  
お買い上げいただきありがとうございます。

本の経緯はケモノミミを描きたいから、  
資料を探す時は猫の発情期ってどんな症状を偶然に見つけた…  
まさか想像以上にエロい！こんなのエッチなミツココを見たい！  
故にこの滅茶苦茶なミツココ本が生えました、すみません。

自分の妄想設定はココロは排卵期の間に猫の発情近いの状態、  
その「匂い」を堪らないの猫化ミツル。  
あとはこの一週間で長男を孕ませるかもしれないと思います。

ちなみに中国語の「満溢而出的心」の意味は「溢れ出る心」、  
もちろん、ここは性的な意味です（笑

これからもいっぱいミツココを描くしますように、  
よろしくお願いします。



# 奥付

誌名

「猫被れないの二人」  
満溢而出的心

発行日

2019/04

著者

キャロット(蘿蔔)

通訳者

うしぐるま@kurumax

発行サークル

キャロットアカデミー  
(蘿蔔農學院)

印刷

株式会社栄光



@RoBosquat



id=316889



zenkixd



zenkileung0210@gmail.com

18歳未満の購入を禁じます

無断転載を禁じます



蘿蔔農學院

キャロット\*アカデミー

Carrot Academy